

平成 30 年 5 月 21 日現在

機関番号：35413

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01612

研究課題名(和文) アジア地域における日本YMCA「体育・スポーツ」事業の定着と独自性に関する研究

研究課題名(英文) Introduction and Uniqueness of the JapaneseYMCA "Physical Education and Sports" Project in Asia

研究代表者

服部 宏治 (HATTORI, KOJI)

広島国際大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：00309684

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、YMCAがアジア地域(日本、中国、韓国)に導入を試みた「体育・スポーツ」事業に関する資料を調査、収集し、アジア地域への展開過程を比較分析することで日本におけるYMCAの「体育・スポーツ事業」の特徴を明らかにすることであった。研究は国内外に保管されている資料の発掘と整理、分析により行った。結果、近代における日本、中国、韓国に関する「体育・スポーツ」事業、アメリカ人体育主事関連資料を得た。また、日本都市YMCAの「体育・スポーツ」事業の特徴として屋内スポーツ施設を拠点とした新種目の紹介や指導者育成、講習会や大会の開催、競技組織の設立によって普及と定着を図ったことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study collected and evaluated data on the "Physical Education and Sports" project that the Japanese YMCA attempted to introduce in the Asian region (Japan, China, Korea), and to clarify the characteristics of the project in Japan by conducting an analysis of expansion into the Asian region. This study was conducted by collecting, organizing and analyzing data available in Japan, China and Korea, as well as data related to American physical education programs. The popularization of the project was based on the introduction of new events in indoor sports facilities. This unique feature of the Japanese urban YMCA "Physical Education and Sports" project promoted instructor training, tournaments, and development of athletic programs.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：YMCA 体育・スポーツ事業 アメリカ人体育主事

1. 研究開始当初の背景

YMCA (Yang Men's Christian Association) による「体育・スポーツ事業」の世界的普及の端緒は、1850年代のアメリカにおけるYMCAでの取り組みまで遡ることができる。アメリカにおける初期YMCAでは、体育館やプールの建設、体育幹事 (Director) の設置および体育主事 (Secretary) の養成、バスケットボールやバレーボールといったスポーツ種目の開発、レクリエーションプログラムの拡充、スポーツ競技の統括団体の設立を通じて、1900年頃までに「体育・スポーツ事業」が標準化され普及・発展することになる。このように、アメリカのYMCAにおいて有用性が確立された「体育・スポーツ事業」は、標準となるモデルを形成し、このモデルに基づいて日本や中国、フィリピンなどの各国の実情を勘案しアジア地域へ普及が試みられていると考えられる。

では、日本におけるYMCAを通じた「体育・スポーツ事業」はどのように紹介され記述されてきたのであろうか。まず、日本の各都市YMCAによって作成された年史や記念誌では、編年史のごく一部としてしか紹介されていない。次に、研究レベルでは、特定のスポーツ種目としてバスケットボールやバレーボール、および競技会に焦点化して、関わりある人物や組織が明らかにされているが、全体としては限定的である。すなわち、YMCAにおける「体育・スポーツ事業」モデルの一部分しか研究対象とされてこなかったという課題が残されている。

一方で、服部は、東京、大阪、神戸、横浜、京都、長崎の都市YMCAについて、「体育・スポーツ事業」を包括的に対象とし、この概要を日本側資料に依拠して明らかにすることを試みている。しかしながら、日本側資料に限定しての考察であったため、日本における社会体育の導入とその後の状況を部分的にしか明らかにできていない。そのため、世界史的視点に立脚した、日本におけるYMCAの「体育・スポーツ事業」の受容とその位置づけがどのようなものであったかという重要な課題を残している。具体的には、アジア地域に広く展開されたYMCAの「体育・スポーツ事業」において、日本の特徴と独自性がどのようなものであったかについては、触れることができなかったのである。

さらに、日本以外のアジア地域におけるYMCAの「体育・スポーツ事業」に関する歴史研究についても、自国資料を部分的に用いて、近代スポーツの導入とその後の状況を概略的に記述するにとどまっている。アジア地域におけるYMCAを通じた「体育・スポーツ事業」に関する研究は、国ごとに分断して行なわれており、あわせて比較研究に寄与するような一次資料の整備もなされていない。また、研究視点についても「近代スポーツの導入」に特化して記述する傾向が強く、「体育・ス

ポーツ事業」を包括的に捉えて定着と発展過程を明らかにしようとしたものは管見の限りない。以上の背景を踏まえて、次のような研究目的を設定した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1) YMCAを通じてアジア地域が導入を試みた「体育・スポーツ事業」に関する直接的あるいは間接的な資料を体系的に調査、収集、整理し、(2) YMCAによる「体育・スポーツ事業」のアジア地域への定着と発展状況を複合的かつ総合的に比較分析することで、(3) 日本におけるYMCAの「体育・スポーツ事業」の受容・定着の特徴と独自性を明らかにする、ことである。

具体的な課題の中では、YMCAの「体育・スポーツ事業」に関する第一次資料を体系的に発掘し収集することが優先されることになる。このことは、本研究をスポーツ歴史社会学研究の基礎研究として位置づけているためである。また、YMCAを通じたアジア地域の「体育・スポーツ事業」の複合的かつ総合的な分析では、当時の文化・社会的背景を踏まえて分析することで、これまで注目されてこなかった比較体育・スポーツ史の新天地を開拓することを試みたい。以上の研究目的を踏まえて、次のような研究方法を設定した。

3. 研究の方法

(1) YMCAの「体育・スポーツ事業」を直接的あるいは間接的に対象とした先行研究を収集し、分類と整理を行ないつつ、精査に分析する。このことで、第一次資料を効率的に発掘するための準備を行なう。(2) アメリカ国内に保存されている第一次資料の調査を行ない、資料の学術的価値を検討しつつ、比較分析に備える。(3) 資料の補完を行ないつつ、アジア地域におけるYMCAの「体育・スポーツ事業」の比較分析を複合的に行ない、さらに文化的あるいは社会的背景を加味して総合的に分析する。(4) 総括として、日本の特徴と独自性を描き出すとともに、アジア地域における体育・スポーツ史研究の新たな地平を開拓し、本研究の目的を達成する。

なお、本研究を推進し3年間という短期間で完遂するために、アメリカでの歴史資料調査経験があり、日本と中国の比較体育史研究に従事し、歴史資料の発掘や整理と分析に精通した研究者である崎田嘉寛 (広島国際大学) との共同研究とした。

4. 研究成果

(1) YMCAの「体育・スポーツ事業」を対象とした先行研究の精査

まず、各国の主要な論文検索のデータベースを使用して、学術論文、書籍、研究報告書の収集を行なった。次に、収集した先行研究の引用文献を参考に、本研究の課題と関連ある学術論文、書籍、研究報告書を収集した。さらに、収集された先行研究に基づいて、YMCAの「体育・スポーツ事業」に関する情報を収集した。

収集した先行研究および情報は、アジア地域におけるYMCAの各拠点を軸として時系列に分類し、「体育・スポーツ事業」の内容、

体育幹事(主事)に分けて整理した。整理された先行研究を精査した際は、アジア地域における体育幹事(主事)の人物相関を念頭に置きつつ、第一次資料の使用頻度と価値、および分析方法の妥当性を検証した。検証結果は、研究代表者と研究分担者で共有できるようにした。

以上の作業から、YMCAの「体育・スポーツ事業」に関する第一次資料を発掘する見通しを立てることが可能となった。

(2) アメリカ国内に保存されている第一次資料の調査

調査概要

本研究では、アメリカ国内に保存されている第一次資料の調査として、現地調査2件、研究協力者による仲介調査1件、を実施した。

まず、現地調査としては、2015年9月1日から2日にかけて、ミネソタ大学 University of Minnesota, Twin Cities)の図書館(Elmer L. Andersen Library)に設置されている『Kautz Family YMCA Archives』の調査を行なった。調査にあたり、アーキビストであるRyan Beanの協力を得て実施した。もう1件は、2017年2月14日から15日にかけて、スプリングフィールドカレッジ(Springfield College, Massachusetts)の図書館(Babson Library)に設置されている『Springfield College Archives』の調査を行なった。調査にあたり、アーキビストであるJeffrey Monseau等の協力を得て実施した。次に、2016年から2017年にかけて、上記『Kautz Family YMCA Archives』の補足調査を研究協力者による仲介を経て通時的に実施した。

以下に、上述した3件の調査結果を国別に整理したものの概略を示す。

日本YMCA「体育・スポーツ事業」関連資料の概要

まず、日本で活動したアメリカ人体育主事に関する資料として、「YMCA international work in Japan: An Inventory of Its Records, Y.USA.9-2-3」(Kautz Family YMCA Archives)より、以下の資料を収集した。

- ・Annual and quarterly reports (Box4-6: 11件)
- ・Correspondence and reports (Box15-18: 53件)

- ・Physical Education Department, correspondence and recollections (F. H. Brown) (1930 also, 1953, 1964) (Box39: 10件)

加えて、「YMCA biographical files, Y. USA.12」(Kautz Family YMCA Archives)より、以下の資料を収集した。

- ・Brown, Franklin Hartwell (Box23: 61件)
- ・Ryan, Winfield Scott (Box181: 10件)

次に、アメリカYMCAに留学した日本人関係の資料として、「Springfield College Archives」より、武内伝一、石川源三郎、金子銀次郎、竹内一、大森平蔵、三橋喜久雄、宮田守衛、石渡俊一、宮崎忠勝、湯浅太助、柳田亨、川崎寅雄、守瀬与三吉、に関する資料を収集した。ここでは、アーカイヴス公開のデジタル資料はもちろんのこと、「Springfield College Graduating Class Materials」などのこれまで未公開であった資料についても収集することが可能となった。

韓国YMCA「体育・スポーツ事業」関連資料の概要

韓国で活動したアメリカ人体育主事に関する資料として、Kautz Family YMCA Archivesより、以下の資料を収集した。

- 「YMCA international work in Korea (Box1)」
 - ・Korea Annual Reports 1902-1986
 - ・Philip. L. Gillett (1902, 1905, 1909, 1911, 1912)
 - ・Frank. M. Brockman (1906, 1907, 1909, 1910, 1915, 1916, 1917, 1926)
 - ・George. A. Gregg (1908, 1909, 1912, 1915, 1916.10-1917.9, 1919)
 - ・Lloyd. H. Snyder (1914.10-1915.9)
 - ・Byron. P. Branhart (1916, 1917, 1919, 1920, 1933, 1936)
- 「YMCA international work in Korea (Box2)」
 - ・Korea Correspondence and Reports (1909-1910)
 - ・Lloyd. H. Snyder (体育事業報告)
 - ・Korea Correspondence and Reports (1911)
 - ・Philip. L. Gillett (手紙)
- 「YMCA international work in Korea (Box3)」
 - ・Korea Correspondence and Reports (1914-1915)E. C. Jenkins
 - ・Korea Correspondence and Reports (1916-1919) George. A. Gregg
 - ・Korea Correspondence and Reports (1920-1921)Byron. P. Branhart
 - ・Korea Correspondence and Reports (1925-1926)
- 「YMCA international work in Korea (Box10)」

中国YMCA「体育・スポーツ事業」関連資料

料の概要

中国で活動したアメリカ人体育主事に関する資料として、Kautz Family YMCA Archives より、以下の資料を収集した。

「Annual Reports of Foreign Secretaries of the International Committee」

- ・Max.J.Exner「Annual Report Shanghai」(1908-1909,1910)
- ・C.H.Robertson「Report」(1903,1904,1906-1909,Tientsin,1912),「Annual Report」(1914-1918)
- ・Charles.M.Heck「Annual Report」(1911)
- ・C.H.McCloy「Report」(1914,1915,1916,1917,1918,1919.「Annual Letter, Annual Report shanghai」(1920),「Record of YMCA International Work in China: Annual and Quarterly Reports」(1919-1920),「Annual Report Letter: Shanghai」(1921),「Record of YMCA International Work in China: Annual Reports: Shanghai」

小括

本研究における調査では、1910年から1930年までの日本、韓国、中国に派遣されたアメリカ人体育主事の活動を対象とした。この中で、日本YMCA「体育・スポーツ事業」関連資料については、日本の体育・スポーツ史研究分野で活用できるまでに資料整理が行なえたと考えている。もちろん、提示したものがすべてではないため、今後も地道に補完される必要がある。

日本YMCA体育スポーツ事業関連資料の特徴の一部を示せば、1923年9月の関東大震災に関する状況報告とその後の復興支援計画が含まれていることである。日本に派遣されていた体育主事以外のYMCA関係者の記録を包括的に解明することで、YMCAの体育・スポーツ施設の復興計画および全体の復興支援計画における体育・スポーツ事業の位置づけが顕在化できよう。課題としては、中国のC.H.マックロイについては後に大学教員となったこともあり、思想的側面を掘り下げることが可能であるが、日本のF.H.ブラウンやライアンも同様に思想的側面を掘り下げていく必要がある。

(3) アジア地域におけるYMCA「体育・スポーツ事業」比較分析の視点と課題

1920年代までに、アジア地域におけるYMCAはおおよそ50都市に拠点が設置されている。本研究では、これらすべての拠点における「体育・スポーツ事業」を明らかにし、比較した成果を導出するまでには至らなかった。そのため、以下に、現在進めている、アジア地域におけるYMCA「体育・スポーツ事業」の比較分析に際しての視点と課題を示す。

比較の分析視点は、アメリカYMCAで確立した「体育・スポーツ事業」モデルを参考に、

組織(制度、施設) 人物(派遣体育幹事、主事養成) 事業内容(各種スポーツの導入と展開や変容) 競技スポーツ団体の設立と関与、国際的なスポーツ競技大会への関与(オリンピック、極東選手権競技大会)を基準として設定している。もちろん、これらの分析視点は複合的に取り扱う必要があることは言うまでもない。また、各地域における「体育・スポーツ事業」の普及、定着、発展過程に影響を与えた文化や社会的背景を加味して、総合的に分析することになる。この総合的な分析では、各地域の普及に用いられた理念、定着に必要であった根拠、発展のための構造的な仕組み、を明らかにすることが到達点となる。

以上の分析が完了すれば、アメリカYMCAの「体育・スポーツ事業」に関する思想と制度の限界を、アジアというフィルターを通じて明らかにできる。また、アメリカYMCAを通じて世界各地で展開された「体育・スポーツ事業」を考察する際の好個な資料を提供し得ると考える。

(4) 総括にかえて～日本YMCA「体育・スポーツ事業」の特徴と独自性を導出する際の視点と今日的課題への適用～

現在、収集・整理し得たアメリカ国内に保存されている第一次資料を踏まえて、比較分析の途中である。そのため、以下に日本国内に保存されている資料を中心として日本YMCA「体育・スポーツ事業」の特徴を示すことで、今後さらなる独自性を導出する視点としたい。

戦前期における日本都市YMCAの「体育・スポーツ事業」は、各地域の社会体育・スポーツの代表的な推進母体の一つであった。

日本のYMCAでは「体育・スポーツ事業」を行うに当たって、拠点となりうる場所が必要であり、そのためのYMCA独自の会館建設が不可欠であった。また、会館建設にあたっては北米YMCAからの資金援助が必要で、その援助を受けるためには社会的に認められていることが条件とされ、YMCAを財団法人化することが必要であった。各都市YMCAは、会館建設に際してその前後に法人の認可を受け、公にその存在を認められる組織となった。

独自の会館(屋内スポーツ施設を含む)は、会員に定期的な体育・スポーツ活動の「場」を確保した。その代表的なものがプールを含む屋内体育・スポーツ施設であった。これまでの天候や日没などで制約を受けていた野外体育・スポーツ施設と違い、天候に左右されず仕事後の平日夜間にも体育・スポーツができる場を提供することで、定期的な体育・スポーツの実施機会を大幅に拡大した。

屋内体育・スポーツ施設という安定した場の提供は、定期的な各種クラスやクラブの開設を推進した。とりわけ、会社に勤めるサラ

リーマンや商店街で働く勤労者には、昼休みや仕事の終わった夕方、夜間にスポーツを行う機会を提供するなど時間帯に応じたクラスを提供した。また、初心者と経験者を分けたクラブを作り活動するなど、個々の要望に細やかに対応するプログラムサービスを提供していたと考えられる。さらに、女性のためのクラスを作り、活動したことは日頃スポーツを行う機会の少ない女性に対し、スポーツを行う環境整備の一端を担う仕組みとして作用したと考えられる。

一方で、各種クラスあるいは講習会を通じて、バスケットボールやバレーボール、デンマーク体操、パドミントン、フェンシング、ハンドボール、レスリング、ボクシング、スキーといった新しい種目が紹介されている。これらは、新規スポーツ種目の存在を周知するというインフォメーションサービスの役割を担うと同時に、大会や競技会の開催を通じて普及の指導的位置づけをも担い、組織団体の整備に寄与する構造的な仕組みが見取れる。

また、会員以外を対象とした体育実演会やエキジビションも開催し、体育・スポーツ事業を紹介・喧伝したり、学生や学校関係者に指導することで愛好者を増やした。

さらに、日本都市 YMCA「体育・スポーツ事業」の展開には、当然ことながらアメリカ人体育主事が深く関わり、彼らは、YMCA の会員の中から指導者になる人物を見出し育成するなど、リーダーサービスを提供していたといえる。

このように戦前の日本において、各都市 YMCA が行った草の根的「体育・スポーツ事業」の定着を促す手法は、運動・スポーツ人口の増加を下支えしており、日本におけるスポーツの普及と発展にとって有効であると判断されたと推察される。そして、この手法は、今日においてもスポーツ普及と発展のための方策を考える上で様々な示唆を与えてくれる。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

1. 崎田嘉寛、服部宏治「YMCA アーカイヴス (ミネソタ大学) における日本の体育事業に関する資料 戦前期のアメリカ人体育主事を中心として」『広島国際大学総合教育センター紀要』査読有、第2号、2017、pp.15-26。

〔学会発表〕(計1件)

1. 服部宏治、崎田嘉寛「戦前期の東北アジア地域における YMCA 体育・スポーツ事業に関する研究」東北アジア・体育スポーツ史学会第12回大会、2017年7月4-7日、浙江省金華市浙江師範大学国際交流センター(中華人民共和国)。

〔図書〕(計1件)

1. 服部宏治『日本の都市 YMCA におけるスポーツの普及と展開 - 大正期から昭和期(戦前)を中心とした YMCA の「体育事業」 - 』溪水社、2015、総ページ数：283 ページ。

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

服部 宏治 (HATTORI Koji)
広島国際大学・保健医療学部・准教授
研究者番号：00309684

(2) 研究分担者

崎田 嘉寛 (SAKITA Yoshihiro)
広島国際大学・薬学部・准教授
研究者番号：6039027